

罹病性・感受性 Susceptibility (サセプティビリティ)

オルガノン §5

急性病を生じさせた可能性が最も高いと考えられる誘因となったいろいろな事実は、治療を助けてくれるものとして医師に役立つ。

同じく、病歴の全体を見渡せばわかるような、慢性病を生じさせた最も重要な要因は、慢性マヤズムに基づく根本原因を見つけだすのに役立つ。

ただし、そうした根本原因を見つけるには、(特に長く患っている病人の)体に認められる特徴や、心情や精神の特色、職業、生活様式や習慣、地域や家庭での人間関係、年齢、性生活などを考慮しなければならない。

ホメオパシーの目的は、その人の敏感すぎる点(必要以上に強い感受性)を減らしてゆくことです。それによって、健康度を上げて行く方法です。

例えば、風邪をひきやすい方は、すきま風や冷えに対する感受性が高いのです。インフルエンザウイルスに対する感受性も高いかも知れません。

人間関係の中で、人からどう思われているか？が気になり過ぎてしまう方も多いのですが、これは対人関係(どう見られるかとか評価されているのか等)に感受性が高いと言えるでしょう。

一般的な常識では、問題の原因を外に置きますが、ホメオパシーの考えはその逆です。本人の敏感すぎる点が病の本質になるのです。病や不調の本当の原因は、外側(気温・ウイルス・苦手な人)にあるのではなく、自分の際だった感受性(罹病性)という内側にあるのです。

際だった感受性が減って来ると、これまでと同じように外部から刺激があっても平気でいられるようになります。体質や気質自体が変わってくるのです。これが、ホメオパシー的な治癒です。これは鈍感になるのとはまったく異なります。

ご自分が、一体、どのようなことに特に敏感に反応し、それによって、どのように心身が乱れるのか？考えてみましょう。

そのことが分かったなら、それだけでも不調は軽減されるかも知れません。